

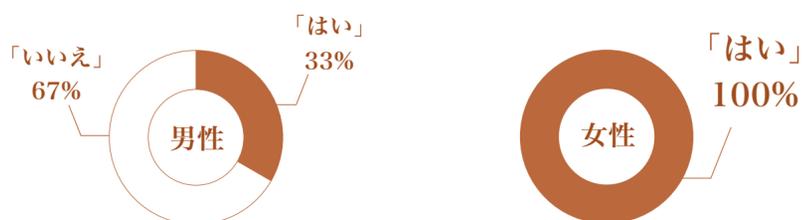
Ichijyoji Court Village

プレイスメイキングを取り入れた防犯集合住宅の提案

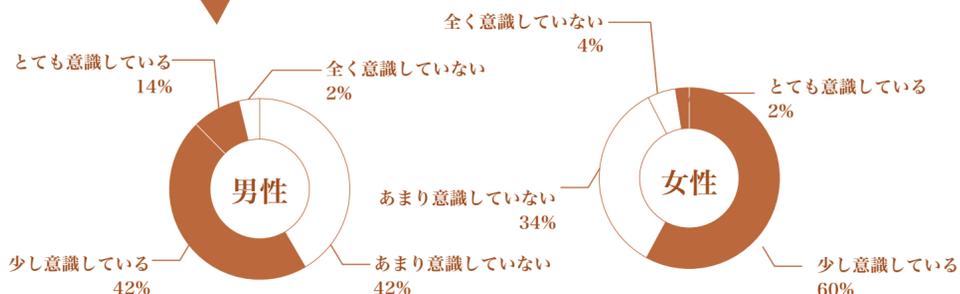
01 問題提起

滋賀県立大学の学部生 85 名を対象に居住地における防犯意識についてのアンケート調査を行なった。

Q1. 一人暮らしの物件選びで防犯を意識しましたか？



Q2. 居住地において防犯を意識していますか？



男性は半数が防犯を意識しておらず、女性は入居前には持っているはずの防犯意識が、住んでいくうちに薄れていってしまっているという問題が浮上する。



無意識のうちに自分の行動が防犯に繋がっている空間であれば、短期的な防犯ではなく、長期的かつ広範囲で対策に繋がるのではないかと、**「自分らしく暮らしながらも自然と防犯空間が構築されている集合住宅」**の制作を行う。

02 敷地

京都 一乗寺

一乗寺は、京都駅から北東へ進んだところ、叡山電鉄叡山本線沿いにある閑静なエリアである。周辺は、チェーン店よりも個人店が多く、パン屋やアンティーク家具屋、本屋など趣ある店舗が揃う。また、ラーメン街道と呼ばれるラーメン街があり、周辺の学生やラーメン好きの人が集まるスポットである。学生の街と言われながら、古くからの店舗や神社も存在し、老若男女、新旧のカルチャーが混在する街である。



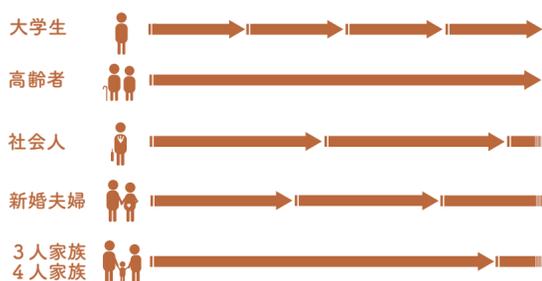
敷地図 S=1/4000

現地調査を終えて、敷地を上記の枠に決定した。一乗寺駅から徒歩 10 分ほどのところにあり、南西には疎水が流れ、南東には賀茂波爾神社がある。神社前の道路は学生や主婦の自転車での往来が目立つ。北西には川端通りが位置し、バス停もある。駅からのアクセスがよく、自然も豊かで落ち着きながらも、人々の往来も見られるエリアであり、近くに保育園もあることから、幼児を持つ家庭にも暮らしやすい環境であると考え、敷地を決定した。

03 住民設定

異なる年齢層が住まう

様々な世代が住むまちである一乗寺だからこそ異なる年齢層が集合住宅に住まい交流を促す。居住期間の異なる世代が住まうことで、長く住み続ける世帯と短期居住の世帯によるローテーションのズレが生まれ、住居内で互いが目配りし、住居内の規律を維持しやすくなる。



住宅タイプ一覧 (図面对応)

- A: 学生一人暮らし向け
- B: 高齢者夫婦向け
- C: 新婚夫婦向け
- D: 社会人一人暮らし向け
- E: 3人家族向け
- F: 4人家族向け
- G: 学生シェア向け

近年異世代でのホームシェアが増加しており世代に違う住民同士が安心感をもたらす効果があると共に一人暮らしを始めたばかりの学生にとってはその地に馴染んだ高齢者との繋がりから地域のコミュニティに踏み込みやすくなる。

04 プレイスメイキング

プレイスメイキングによる防犯と居心地の良さの両立

文献調査より明らかになったプレイスメイキングによる自然監視がもたらす効果を取り入れ、住民同士の自然監視だけではなく、住民以外の第三者が介入することで住宅全体の防犯につなげていく。

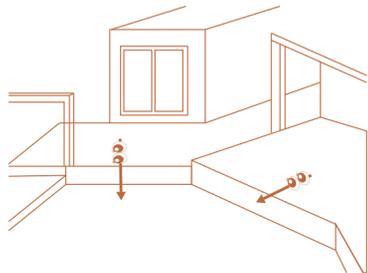
プレイスメイキング = 居心地の良さ・楽しさ + 自然監視

| | |
|-----|---|
| 座り場 | 日本人は日陰を好んで座る傾向があり、木陰やオーニング、パラソルの日陰を意味する。 |
| 陰り場 | 居場所づくりの基盤になる自由で無料で使える座面とその配置が重要で稼働できる椅子が望ましい。 |
| 巡り場 | 敷地内でどこに滞在するか座り場を探す楽しみがある。 |
| 食場 | 持参した飲食物を取ることができる場所ともしくは飲食店舗の座席の設置。 |

以上の4つの場の設営を軸とし、敷地内の設計を行う。
(引用：渡和由・三友奈々、「防犯的な視点から見たプレイスメイキングに関する考察」)

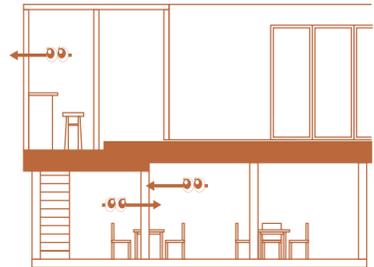
1. 神社前広場

神社前にある座り場であり、神社で水を汲み一息つけるスポット。イベントスペースでの活用も可能。



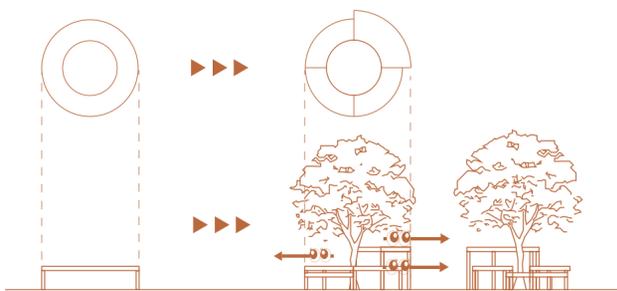
3. 食事場

敷地内にカフェを設け、食事できるスペースをデッキを設ける。



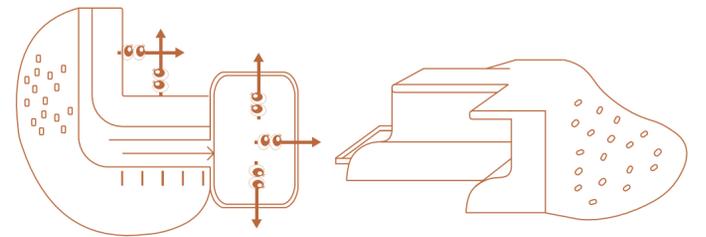
2. 円形椅子

本屋の前にはレベルの異なる円形の椅子を設け利用者の視線を分散させる。



4. 遊び場

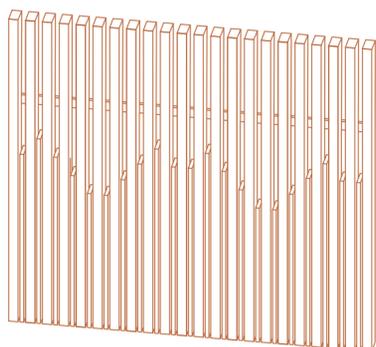
保育園が近くにあることから子供連れの家庭が住むことを想定し遊び場を設けた。



自然監視を生む
4つの溜まり場

面格子に守られるプライバシー

ベランダに干している洗濯物やリビングのリラックスしている空間などのプライベートスペースへの外からの視線を遮るため面格子を設ける。また面格子があることで夜間にカーテンを閉めなくて済む。住宅の窓からの光漏れが「住民がいる」という利用者側の行動意識・安心感にもつながり敷地内の治安の維持に繋がる。

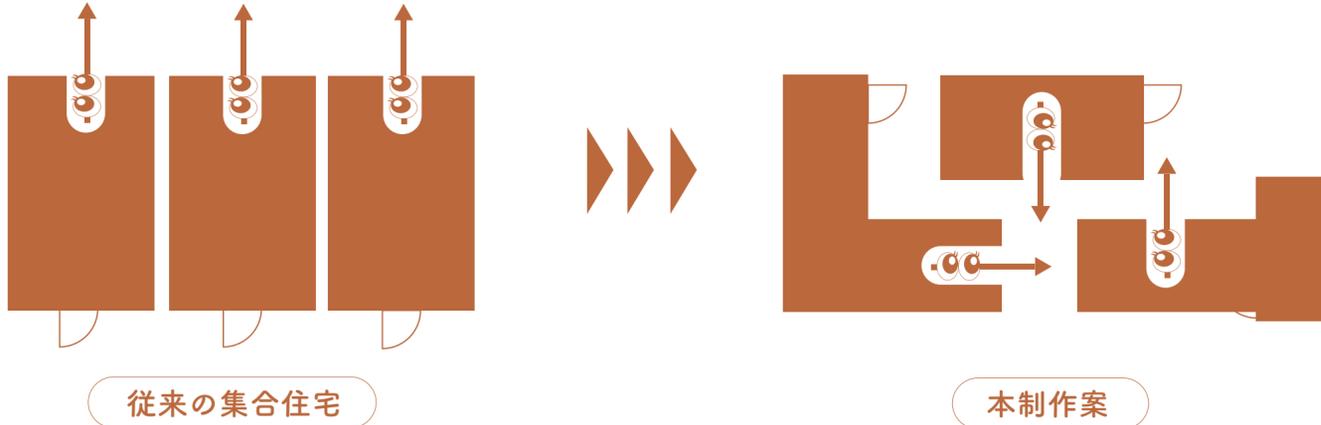


ベランダ用面格子

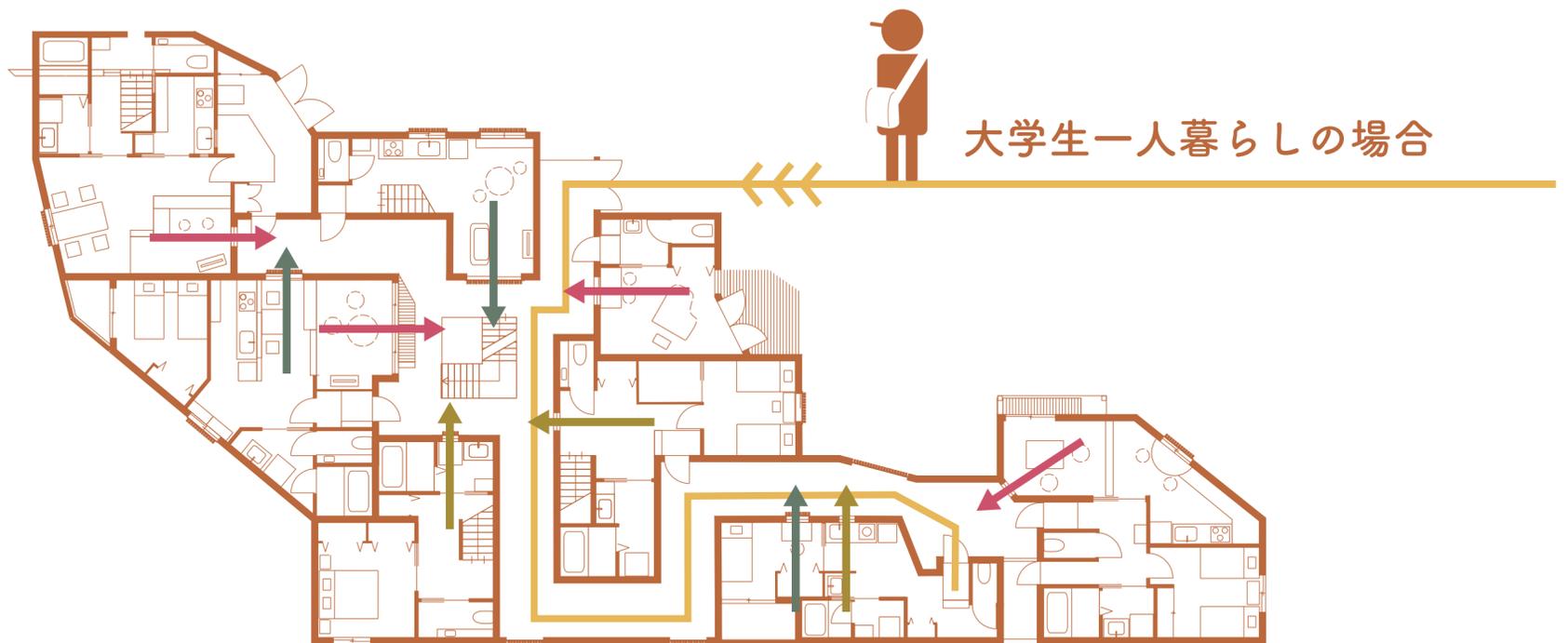
ベランダ用の面格子の下部は、波状の格子とし密度を高め、洗濯物を外部から見えにくい設計とした。

内廊下で交差する視線

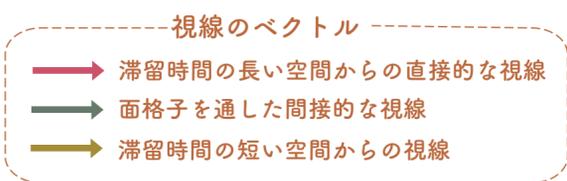
基本的に住民のみが行き来する共用廊下への視線を集めるために、リビングダイニングに廊下への開口を設け住民同士の自然監視を促し相監視システムが構築する。



自室の玄関までの道のりで必ず住宅のリビングやダイニングルーム開口前、もしくは店舗開口前を通る。お互いに住民同士で往来に目を向けることで、自然に互いを意識し合う関係性が生まれる。



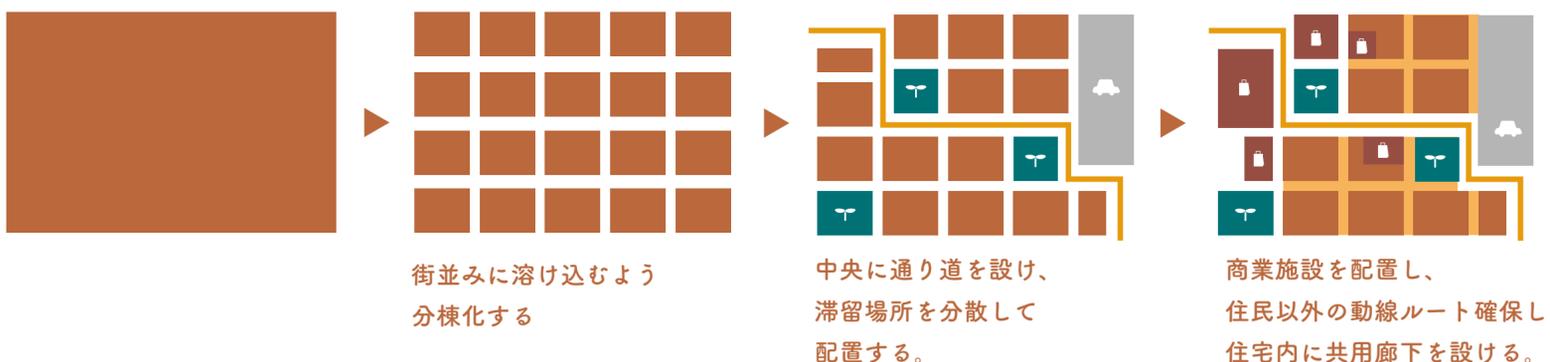
平面図（一部抜粋）S=1/150



05 街並みに溶け込む

一乗寺には住宅街にポツンと佇む店舗が多くある。チェーン店が並ぶ大通り沿いから離れ静かでどこか落ち着く店舗が一乗寺の穏やかな風景とマッチし、地域に溶け込みながらも賑わいのある店舗が多くある。そういった一乗寺らしい風景を取り入れ、歩いているとふと店が現れる、立ち寄ってみる、そんな配置計画とした。

全体ダイアグラム



a. 境内のアクティビティが溢れ出す座り場

丹



賀茂波爾神社

一乗寺フェスティバル

敷地前に佇む賀茂波爾神社。賀茂波爾神社は知る人ぞ知る隠れた名水スポットがあり、地元の人だけではなく訪れる観光客も多い。そこで、神社で水を汲み飲む座り場を考える。神社の鳥居をくぐってすぐ目の前にレベルの違う広場を設け、通常時は座り場として活用され、神社で行われる路地祭の際には神社の中から外へ出店などが並べるスペースとした。また、一乗寺では音楽フェスが例年行われているため、屋外音楽イベントやマーケットスペースとして活用される空間とする。

b. 桜の沿道の延長



桜の疎水沿い散歩

銀閣寺近くの白川通りから続く桜の街道の最終地点として敷地内にも桜の街道を設ける。散歩の最終地点にはゆっくりくつろげる空間が必要であると考え、テラス席のあるカフェを設けデッキからは疎水を眺めて寛ぐことができる。二階デッキは道路に突き出す形で、京都の夏の伝統的な風物である納涼床を意識したテラスデッキとした。

c. 創作の場



美大生の創作

周辺に京都工芸繊維や京都造形大学があることから美大生の多いことに着目し、アトリエスペースのある住居を設ける。また、学生が展示会などをできる空き店舗を設け、周辺住民が学生の創作に触れられることができる場を設ける。



A-A 断面図

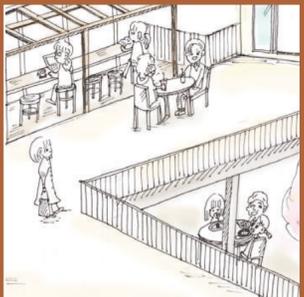
S=1/200 1 3 5M



B-B 断面図

S=1/200 1 3 5M

v



上下階にあるカフェデッキ

カフェのイートスペースとして外の上下階にデッキを設け視線の分散を誘導する。また、2階デッキからは球水を眺めることができ、ゆっくりした時間を過ごすことができる。



3階平面図
S=1/300

vi



円形の座り場

木を囲むように配置した座り場は、利用者同士の背中合わせになることで気かけずに過ごすことができ、視線を分散している。座面の奥行きや高さに差を設け身長や用途に合わせて利用できる。



2階平面図
S=1/300

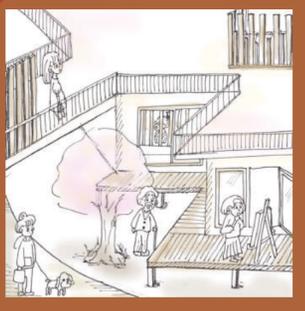
iii



共通廊下への視線

住民のみが行き来する共用廊下部分に視線を集めるためリビングやダイニング空間に廊下への開口を設け内廊下への自然監視を促す。

iv



縁側と面格子

住民と住民、利用者と住民がオープンにつながるスペースには縁側を設け、関係性の構築を図る。ベランダやリビング空間には開口や室内に面格子を設けることで外からの視線を遮る。

i



神社から続く広場

通常時は座り場として利用される大広場。名水スポットである賀茂波瀾神社で水を汲み、すぐに休憩できる。ライブマーケットを行えるようレベル差を設けた。



住宅タイプ一覧

- A: 学生一人暮らし向け
- B: 高齢者夫婦向け
- C: 新婚夫婦向け
- D: 社会人一人暮らし向け
- E: 3人家族向け
- F: 4人家族向け
- G: 学生シェア向け

1階平面図
S=1/300

ii



中央通り道

敷地中央に通り道を設けることで住民以外の往来を誘導する。道沿いに店舗や座り場を設け巡りながら自分で滞在場所を探し楽しみを生む。